

日本自然保育学会設立記念
学術集会
シンポジウム

「自然保育」が拓く保育・幼児教育の未来

——「自然保育」をめぐる実践・政策・養成の現在——



日時: 2015年 **11月28日**(土) 10:00~12:00

場所: 東京大学本郷キャンパス 教育学部棟 156 教室

報告者: 小林成親 (NPO 法人 山の遊び舎はらぺこ)
竹内延彦 (長野県県民文化部次世代サポート課)
碓井幸子 (清泉女学院短期大学)
指定討論者: 上原貴夫 (長野県短期大学)
企画・司会: 山口美和 (長野県短期大学・東京大学大学院)

主催: 日本自然保育学会

共催: 東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター

日本自然保育学会設立記念 学術集会

シンポジウム

「自然保育」が拓く保育・幼児教育の未来 ——「自然保育」をめぐる実践・政策・養成の現在——

報告者：小林成親（NPO 法人 山の遊び舎 はらぺこ）
竹内延彦（長野県県民文化部次世代サポート課）
碓井幸子（清泉女学院短期大学）

指定討論者：上原貴夫（長野県短期大学）

企画・司会：山口美和（長野県短期大学・東京大学大学院）

〈企画の趣旨〉

幼児教育のオルタナティブとして、自然環境や地域資源を活用し、野外における子どもの主体的な体験を重視する「自然保育」が全国的に注目を集めている。政策的な観点から見ても、今年度、長野県の「信州型自然保育認定制度」、鳥取県の「とっとり森・里山等自然保育認証制度」が創設されたほか、三重県や岐阜県でも同様の動きが加速しており、積極的に「自然保育」の推進・普及に関与していこうとする自治体が顕著に増えている。

このように、自然保育への関心は確実に高まり、またそれにむけた動きも点から線へ、そして面へと確実に広くなりつつあるといえる。「自然保育」をめぐる生まれつつあるこの新しい潮流を、一層力強く育てていくために、いま本学会には何が求められているのだろうか？

本企画は、保育実践、保育者養成、行政のそれぞれの立場から、この時代にこそ人々に求められている「自然保育」の意義をあらためて問い直すことによって、そこに芽生えている新たな保育・幼児教育の可能性を浮かび上がらせることを目的とする。

ドイツや北欧における実践に影響を受けた、いわゆる「森のようちえん」や「野外保育」と呼ばれる保育実践は30年以上前から行われてきたものの、その歩みは決して平坦なものではなかった。それらの施設の多くは、園舎や職員配置などに関する国の基準を満たさず、行政の支援を受けることが困難であった等の事情から、つねに既存の幼児教育・保育の制度的な枠組みの「外部」にあったためである。この事情は、既存の幼稚園・保育所と、「森のようちえん」や「野外保育」とを、長らく分断させる原因ともなったといえる。

「自然保育」の理念がさらに広がっていくためには、こうした分断の歴史を乗り越え、施設の枠組みを超えて、幼児期の健やかな育ちのために望ましい体験や環境のあり方を、多様なアクターが共有していくことが必要である。討議を通して、保育実践と研究、保育者養成と現場、行政と家庭とを結ぶ新たな言葉を創出し、互いに協働していくための手がかりを得ることを目指したい。